

夏の宿題

院長 久留 聡

第10回筋ジストロフィー医療研究会
～杉の子特別支援学校から～
新型コロナウイルス感染対策支援に関する東京都知事からの感謝状
療育指導室からのお知らせ
地域医療連携室だより
名誉院長の部屋

鈴鹿の風

すずかのかせ

VOL.
49

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院広報誌





夏の宿題

独立行政法人国立病院機構鈴鹿病院

く さとし
久留 聡

AIが進化すると色々なことができるようになります。最近ではコンピューターがさまざまなタイプの文章を代行で書いてくれるそうです。ひと昔前には大学のレポートをコピペ（コピー＆ペースト）でインチキする学生のことが話題になりました。今度は、テーマや体裁、書き手のレベルなど設定すれば、それらしい文章を作ってくれるそうですから大層便利です。小中学校の夏休みの宿題の中で、子供たちを悩ませる悪名高き「読書感想文」もこれを使えば一気にクリアできるかも知れません。でも、努力しなきゃダメでしょという声も当然出てきそうです。感想文を書くには、本を選ぶところから始めて、熟読した上で自分の考えをまとめ、それを適切な表現を用いて形にする。何度も推敲して完成度を高める。その過程には多大な労力を要します

が、仕上がったときの達成感は何者にも代えがたく、ひいては文章能力の向上につながるのだ（と国語の先生はおっしゃるでしょう）。確かにそうなのですが、そもそも感想文を前提とした読書ほど味気ないものはないと感ずるのは私だけでしょうか？私も読書を愛する人間ですが、読書感想文にまつわる学生時代の苦い思い出はまだまだ忘れられません。だからといって、AIを使って楽をすることを薦めている訳ではありません。要は「AIも使い様」なのです。かつて将棋界はスマホによるカンニング問題で大揺れとなりました。結局は冤罪だったのですが、AIが人間を凌駕してしまったのが故の大スキャンダルでした。しかし天才・藤井聡太の登場により将棋界は一気に人気を取り戻すとともに、AIを有効利用する棋士が実力を発揮する時代となっています。

医学・医療の発展も、今やAI抜きでは考えられませんが、上手に付き合っていきたいと思う今日この頃です。（ちなみにこの文章自体は全く私の創作でありAIには頼っていません）

最後になりましたが、第10回筋ジストロフィー医療研究会・第9回日本筋学会の合同学術集会は8月に大阪千里で開催され、真夏にも関わらず500名以上の参加者があり盛会の裡に無事終了いたしました。コロナに邪魔されて3年越しとなった合同開催という「夏の宿題」をようやく完遂できて胸を撫で下ろしています。詳しくは関係記事を御覧下さい。関係者各位には篤く御礼申し上げます。



第10回 筋ジストロフィー医療研究会

「みんなの叡智で拓く筋ジストロフィー医療の未来」

当院の職員が参加しました

2023年8月18日（金）・19日（土）に大阪府の千里ライフサイエンスセンターで「みんなの叡智で拓く筋ジストロフィー医療の未来」をテーマに、第10回筋ジストロフィー医療研を開催しました。今回は第10回という節目の会であり、日本筋学会学術集会との合同開催でもありました。

令和5年8月18日、第10回筋ジストロフィー医療研究会（大阪千里ライフサイエンスセンター）で、「筋強直性ジストロフィーと甲状腺ホルモン」についてポスター発表を行いました。また、一般口演「筋ジストロフィー診療」のセッションにおいて座長を務めました。今回は、第9回日本筋学会学術集会と合同開催であり、筋について多くのことを学ぶことができました。

脳神経内科 野田 成哉

「神経難病・筋ジストロフィー病棟におけるナースコール対応の現状分析」について発表しました。多くの他施設の方との情報交換も出来て、今後さらに考察を深め患者様にとって安心できるぬくもりのある看護を目指していきたいと思えます。

東1階病棟 看護部長 大始良 真紀

「当院筋ジストロフィー病棟における成年後見人制度利用」についての発表をしました。患者様と家族様で制度利用に対する考えに違いがあることが分かり、個々に応じた働きかけの大切さを考えることができました。現地では他施設の方との交流や、先生方の貴重な発表を傾聴しとても有意義な時間を過ごすことができました。ご協力いただいた皆様により感謝申し上げます。

療育指導室 児童指導員 西村 ひな

今回、「コロナ禍での生活環境の変化で歩行能力低下を来したFSHD患者に対するHALの回復効果」というテーマで発表させていただきました。筋ジストロフィー患者様のリハビリテーションについて、HALのみならず様々な分野について他施設と意見交換でき、実りある研究会となりました。

リハビリテーション科 理学療法士 青木 俊樹

今回、初めて筋ジストロフィー医療研究会に参加いたしました。講演会やシンポジウムなどに参加できたことも有意義でしたが、普段接する機会の少ない、基礎研究分野の発表に触れることができ、自分の知識不足を痛感するとともに、筋ジストロフィー治療への希望も感じることができました。日々は精進、です。

脳神経内科 平野 聡子

今回筋ジストロフィー医療研究会にて会場運営・発表・看護を語る会への参加をさせていただきました。

看護を語る会では、意思決定やデスカンファレンス、退院調整といったエピソードを聞くことができ、自分たちと同じようなことで悩んでいる方もいて、共感できる部分が多かったです。

研究発表では車椅子での交通安全ルールについての発表を行いました。他院の発表を聞き、交通ルールや免許制度を導入しているところがあると知ることができ、とても参考になりました。

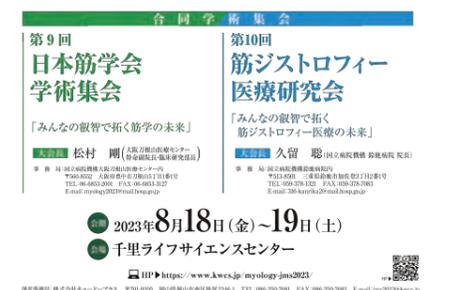
西1階病棟 看護師 樋口 有紀

第10回筋ジストロフィー医療研究会で「生体情報モニタの受信ノイズ悪化を経験して」という題で発表してきました。会場は非常にたくさんの参加者で賑わう中、自身の経験を他施設の方々と共有でき、また他施設の問題なども話し合われ活発な議論が交わされました。

臨床工学技士 人見 允隆

「筋ジストロフィー病棟における療育活動の聞き取り調査を用いた満足度の変化」という題材で発表させていただきました。この研究発表を通して、患者様に寄り添った療育活動を実施する大切さを学ぶことができました。

療育指導室 保育士 増田 衣利



2023年8月18日（金）～19日（土）
千里ライフサイエンスセンター

HP: <https://www.kwcc.jp/myology/2023/>

令和5年8月、第10回筋ジストロフィー医療研究会（大阪市）に参加し、「筋ジストロフィー患者に対するロボットスーツ（HAL®）適用時の歩行能力評価」として、ロボットスーツを用いたリハビリテーションを行うことで歩行能力の向上したことをまとめ、発表させていただきました。ロボットスーツは、センサーで筋肉の動きを検知し、それに合わせてモーターが動き、歩行を助けてくれるものです。当院では、筋ジストロフィーのような筋力が低下する疾患の患者様が多く、ロボットスーツの適用事例も増えています。まだ始まったばかりの治療であるため、今後さらに研究を進め、より良い方法を見つけていきたいと考えています。また、同じ志を持った他施設のスタッフとの情報交換は非常に有意義で、良い刺激をいただきました。今後も研究会で得られた知見を治療に生かすべく頑張ってまいります。

リハビリテーション科 理学療法士 伊藤 博紹

鈴鹿病院 NEWS

～杉の子特別支援学校から～

本校は、鈴鹿病院のすぐ南西に位置し、知的障がい教育部門（小学部）と肢体不自由教育部門（小学部・中学部・高等部）の学校です。

児童生徒会の活動では、4月・11月のいじめ防止月間を中心に様々な活動に取り組んでいます。そのなかの一つ、いじめ防止のピンクシャツになみ、ピンク色の花（春はチューリップ、夏はペチュニアや日日草、かすみ草など）をメインにプランターに寄せ植えし、花のお世話をしています。そして、いくつかのプランターを鈴鹿病院玄関横に設置させていただいています。

ある日、プランターのふちに「すてきな花をありがとう」という病院スタッフの方のメッセージシールが貼られていました。水やりの際に見つけた子どもたちからは「ありがとうと言ってもらえた」「うれしい」との声がありました。また別の日には、入院患者の方がプランターを眺めてい

ました。お話を伺うと、「つぼみを見つけると、また明日も見に来ようと元気が出る。子どもたちにありがとうと伝えてください」とのことでした。

人から感謝されることで、「私の水やりが役にっている」「喜んでくれる人がある」と子どもたちの自己肯定感を育む機会となります。花をとした鈴鹿病院との交流を、今後も続けていきたいと考えています。
杉の子特別支援学校 教頭 山中 千聡



療育指導室からの お知らせ

残暑がまだまだ厳しいですが、皆さん体調等くずされていませんか。

鈴鹿病院では地域の皆さんによる演奏会、車椅子の清掃等、たくさんのボランティア活動を行っていただいております。

ただ、これらの活動もコロナ感染症により、数年近く制限されておりました。

しかし、コロナ感染症も5類へと移行になったこともあり、感染対策をしっかりととったうえで、ボランティアの皆さんによる活動も少しずつ復活！しています。

今回は、その活動を1つご紹介したいと思います。

ボランティアグループ「白百合」の皆さんによるギター演奏会を6月8日と7月4日に開催いたしました。

当日は久しぶりのイベントということもあり、会場にはたくさんの患者さんたちが集まりました。

準備段階から「まだかな?」「もうすぐ?」「どんな曲かな?」とウキウキ・ワクワクした様子の患者さんたちに職員も表情が緩みます。

実際に演奏が始まるとリズムに合わせて身体を揺らしたり、手拍子したり、口ずさんだり…と、とても楽しんでいる様子が見られました。

演奏が終わると、「アンコール!」の声。予定時間を過ぎていましたが、「白百合」の皆さんは快くアンコールに応えてくださっていました。

患者さんたちは「楽しかった」「もっと、聞きたい」「また来てほしい」との感想がいっぱいありました。

「白百合」の皆さんには、事前にコロナ感染症の検査、感染対策のレクチャーを聞いていただき、演奏会前から色々な準備にご協力いただきました。本当にありがとうございました。

鈴鹿病院は、筋ジストロフィーや重症心身障害等、さまざまな病気や障害をお持ちの患者さんが入院して

います。そのため、まだまだしっかりと感染対策を行っています。それでも、今後もしっかりと対策を取りながら少しずつ患者さんたちが楽しめるイベントを実施していきたいと思えます。

次は何のイベントを開催しようかと思案中です。

何かいいアイデアをお持ちの方がおられましたら、鈴鹿病院までご連絡頂けると嬉しいです。お待ちしております。

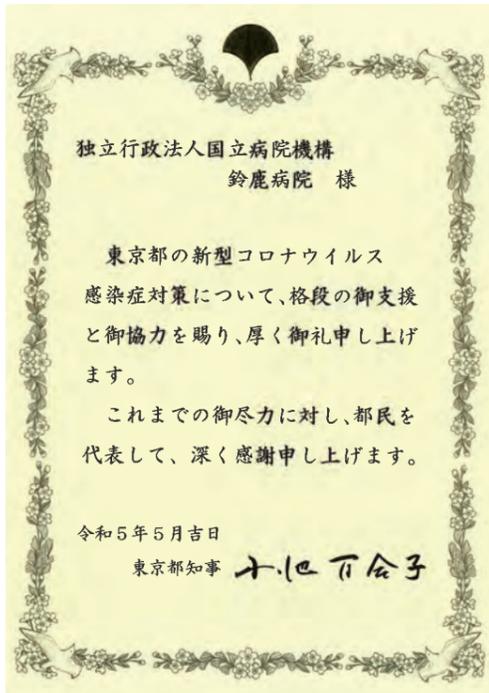
療育指導室 鈴木みえ 丸澤由美子



新型コロナウイルス感染対策支援に関する 東京都知事からの感謝状

令和5年5月付で東京都の新型コロナウイルス感染症対策についての鈴鹿病院の取り組みに対し、東京都知事より感謝状が贈呈されました。東京都のコロナ病棟支援、宿泊療養施設支援、コロナ臨時医療施設支援等を行いました。

今後も引き続き、感染症対策に限らず、医療支援活動等を行ってまいります。



サル出没注意

最近、鈴鹿病院の駐車場等でサルの出没が報告されています。

サルは、人が脅かしたり、物を投げたりしなければ、人に危害を加えることはありませんが、ご注意下さい。



地域医療連携室だより

鈴鹿病院へ長期入院を希望される患者さんへ

鈴鹿病院は三重県の難病拠点病院として神経難病の患者さんの長期療養入院やレスパイト入院の受け入れを行っています。今回は鈴鹿病院へ長期入院を希望される患者さんに対して、当院よりお願いしたいチェックポイントをご説明させていただきます。

- ①事前にかかりつけの先生に十分ご相談ください
長期入院希望のため外来受診される場合は、診療情報提供書（紹介状）をかかりつけの先生に書いてもらい、当院地域医療連携室（下記連絡先）に送付してください。
なお、診療情報提供書のお返事は情報提供元の先生宛へ返書させていただきます。
- ②患者さん本人が来院したうえで医師による外来診察を受けてください
どうしても患者さん本人が来られない場合は、ご家族・ご親族がお越しください。
施設や病院へ入所・入院中の方については下記連絡先へお気軽にお問合せください。
- ③長期入院のご意思を診察時に明確に伝えてください
患者さん本人が今後どのように生活していきたいのかしっかりとご意思を固めてください。
そして、そのご意思を診察時に伝えてください。
なお、様々な手段を用いても本人が意思表示できない場合は、法定後見人が本人に代わってご意思を伝えてください。
- ④まずはレスパイト入院のご利用をお勧めします
当院の入院環境に慣れていただくために最初から長期入院ではなく、まずはレスパイト入院のご利用をお勧めします。
レスパイト入院と在宅生活を繰り返しながら患者さんの状態に応じて長期入院を考えていただければと思います。
まずは下記連絡先までお問合せください。
今後とも鈴鹿病院をよろしく願っています。

お問い合わせ

独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院 地域医療連携室 医療福祉相談室
電話：059-378-1321(代) FAX：059-379-6670 (直通) お問い合わせ時間：平日8:30～17:15

名誉院長の部屋

またもやコウモリかヨ—コロナもエボラも

名誉院長 小長谷 正明

2020年1月早々に中国の武漢で新型コロナウイルス感染症が現れて瞬く間に世界中に広まり、どうしてこのウィルスが出現して、人間に感染していったのが問題になりました。そして、キクガシラコウモリがこのウィルスを持っていると分かり、また発端は武漢の食肉市場という説もあったことから、蝠の字が福に繋がるとあやかって食べてしまい、コロナになったグルメがいたのかもしれないなどと思いました。中華料理では机以外の四本足はみな食材にするというので、空飛ぶ哺乳類も例外ではない？無責任なジョークはさておいても、またコウモリかヨと思ったものです。各種のコロナウィルス以外にもマールブルグ病やエボラ出血熱、日本脳炎、狂犬病などがコウモリ類を宿主としていることが知られており、ウィルスの湖と言われるほどです。イソップ童話のようにケモノともトリとも言えぬ態で夜飛び、人里離れた洞穴で集団生活し、

奇怪な顔つきだったりするので、そうなんだと単純に考えてしまいそうです。

しかし、胡散臭いから犯人扱いは科学的ではありません。熱帯なのでアフリカ人は黒いというのと同じで、メラニン色素の紫外線からの保護効果で皮膚ガンを防いでいるというような説明が必要です。で、なんでコウモリなんだヨのモヤモヤした気分で、この3年ほどコロナの書物やウェブサイトを見ていました。ところが、ひょんなことから、コウモリとウィルスの関係が判り、なるほどと頷いたのです。

今年の6月2日、千葉の幕張で日本神経学会があり、僕は“こんなにもおもしろい神経学の歴史”というシンポジウムで徳川吉宗などの失語症について講演しましたが、その後が大変。季節外れの台風2号の前線刺激で大雨となり、交通混乱です。学会用の一張羅がグショグショになり、再開した京葉線でなんとか東京駅に着くと、今度は新幹線が運休、再開の目処無し。心当たりのホテルは全部ダメ。やむなく、東京在住の娘のマンションに転がり込みました。突然の、水が滴るお祖父ちゃんの来訪に、孫たちは大喜びですが、なんとも心許ない次第。

翌朝、近くのモールのユニクロで衣類を整え、目の前の書店に立ち読みに入りました。と、『コウモリはウィルスを抱いて空を翔ぶ』という、おどろおどろしい本があります。内容のない薄っぺらな本だろうと思いつつ開くと、案に相違して一般向けながらも免疫学について内容の濃い本です。著者は東大で免疫を研究している新田剛先生で、ところどころに色々な動物の免疫

についてのコラムがあります。

早速買い求め、やっと切符が取れた夕方5時発の新幹線の中で読み始めました。免疫は生体の中の複雑なシステムで、学生の時からいくら勉強しても、ちっとも頭の中に入ってきません。この本も、なんども読んで戻りをしながら、コウモリとウィルスの関係が少しは理解でき、ずぶ濡れもたまにはご利益があるものだと思いますながら名古屋に帰りました。

さて、コウモリは空を飛びます。その時大量のエネルギーを使い、安静時の17倍も酸素を消費します。酸素を使うということは、ゆっくりと燃焼させることですが、その時に酸化力の強い活性酸素が発生し、タンパク質やDNAなどを破壊します。DNAが壊れると、癌などの悪性腫瘍が発生します。固い鉄が酸化してポロポロの赤サビになるのと同じです。なお、鉄サビができる時の熱を利用して利用しているのが、モムホットのようなカイロです。

そして、細胞内で酸素を燃焼させてエネルギーを作り出すのはミトコンドリアという小器官で、元々は独立した微生物だったのですが、何十億年前に生物のご先祖の細胞の中に入りこみ、エネルギー産生担当の構成部品になってしまいました。卵子から卵子に、つまりは母系遺伝で伝わっていき、少数ながらもDNAもあります。その研究から、人類の共通の祖先は17万年前にアフリカに居た女性と突き止められ、ミトコンドリア・イヴと呼ばれています。

一方、ほとんどの哺乳動物の免疫系には、自然免疫といって細胞内に入ってきた微生物やウィルスや異物を探知して、破壊するシステムがあります。ウィルスはDNAやRNAなどの核酸そのものですから、細胞内部でDNAが本来ある筈の細胞核やミトコンドリア以外の部分にあるDNAは病原体として、破壊してしまふ。ですから、活性酸素で破壊されたDNAの断片も検知して除去していきます。この時に炎症反応が起こって発熱したりして体の負担になります。

大量に酸素を消費するとコウモリですが、壊れたDNAの処理システムが機能しないのです。コウモリでは活性酸素

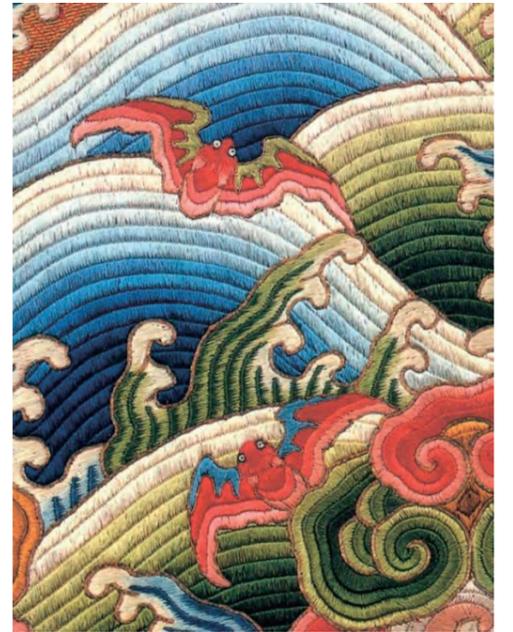
に破壊されるDNAがあまりにも多いので、一々炎症反応でエネルギーを消費しては身が持たない。結局、コウモリは異常なDNAを排除しないように進化して、空を飛んでいるのです。しかし、そのことは、ウィルスも排除しないことでもあり、コウモリはウィルスと共存できる体のシステムになったということです。でも、全てが説明つくわけではありませんが・・・。

もちろん、コウモリでもウィルス感染で病気になり、悪性腫瘍も発生するはず。当然、別の免疫システムやDNAの修復システムが活発に働いているにちがひありません。そうでなければこの動物は病気で絶滅していた筈ですが、不勉強なので詳細はわかりません。

このように、コウモリが人類に病気をもたらすウィルスの湖であれば、疫病予防のために徹底的根絶の声が沸き上がって来そうです。が、ちょっと待って下さい、環境が壊滅的に破壊されます。コウモリはとてつもない数の個体があり、それが毎晩空を飛び回って昆虫を食べています。人に病気を媒介する蚊やハエ、それに幼虫が植物を食べ尽くすガなどを、体重数グラムの小型のコウモリでも一時間に500匹以上も捕食す

る。アメリカのある洞窟の計算では2500万匹のコウモリが1年間に13000トンの昆虫を食べているそうです、全世界だと、この1万倍あるいはそれ以上？ですから、コウモリがいない世界は、マラリアや黄熱病などが蔓延し、畑や果樹園には作物が実らなくなります。何処かでこの動物と折り合いをつけなくてははいけません。今回のコロナ禍や過去の感染症で培った予防策やワクチン、治療薬で、その都度乗り越えて新たな感染症に立ち向かっていくべきなのでしょう。

なお、このコウモリの自然免疫の研究は、武漢の研究所でなされていました。動物のウィルスの遺伝子改変などもして、中国の最初の都市封鎖も武漢でした。新型コロナ感染症が話題になり始めた2020年早々には、このウィルスのDNA配列が中国から伝えられたともいいます。なんだか、コウモリ以上に、胡散臭い話ですね。



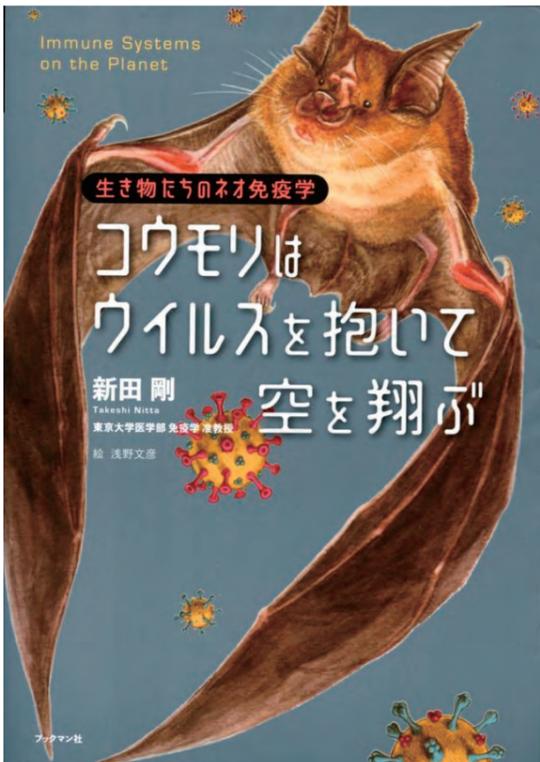
17世紀清の皇帝衣装の蝙蝠の刺繍 (Metropolitan Museum)



歌川広重 狂筆蝠寿の姿見・伽羅先代萩 蝠の字は福に通じることから、髪型や衣装の柄、大ねずみまでも蝙蝠づくしの狂筆。害虫を食べるコウモリの徹底退治は、福変じて大惨事になる。



彩蝠: こんな綺麗なコウモリもいる。Painted bat (Kerivoula picta) 東南アジア原産 (Konasonian Museum of Junk)



■ 外来診察担当表 (2023年10月1日現在)

	月	火	水	木	金
脳神経内科	南山	小長谷	久留	小長谷	久留
	木村	酒井			
内科	野口	野口	牧江	落合	
		落合			
小児科		予約			予約
整形外科		田中 (装具外来)			田中
リハビリテーション科		田中			田中
皮膚科		予約(午前)			予約(午後)
歯科	山田(午前)	山田(午後)		永田(午後)	
禁煙外来	野口			落合	

- 外来受付は8:30~11:00、診療開始は9:00~です。
- 歯科は身体障害者の方に限ります。
- 装具外来は火曜日の午後1:30から整形外科で受付いたします(あらかじめ電話予約のうえお越してください)。
- 小児科外来は担当医とご相談のうえ、ご予約ください。
- スギ花粉症でお悩みの方を対象に舌下免疫療法を実施しています。(月曜日)
- 土曜日、日曜日、祝祭日は休診です。

■ 交通案内

- JR「加佐登」駅より徒歩15分
- 東名阪「鈴鹿」I.C.より車15分
- 近鉄「平田町」駅よりタクシー15分
- 鈴鹿市西部地域コミュニティバス
椿・平田線「26加佐登神社」下車すぐ



編集後記

私事で恐縮ですが、先月からスポーツジムに通い、数年ぶりに運動する日々が始まりました。

まだ、数分しか走られませんが、体質改善を繋げればと思っています。

夏も終わり最近は大分涼しくなってきました。季節の変わり目は体調の変化に注意が必要です。皆様も十分お気を付け下さい。

庶務班長 加藤久徳

独立行政法人国立病院機構 鈴鹿病院

〒513-8501 三重県鈴鹿市加佐登3丁目2番1号 Tel 059-378-1321(代) Fax 059-378-7083 <https://suzuka.hosp.go.jp>

令和5年10月発行